

建物火災 事例 17

建設中の木造2階建て住宅の火災に出動し、筒先担当員として放水場所を確保するため梯子を屋根に架け上りかけた際、はしごを架けた場所が薄暗く不安定な樋に架けてしまったため、はしごの上部の片方が外れ梯子が180度展開してしまいぶら下がった状態になった。

結果 負傷者なし

対策

着梯場所の安全確認を励行する。

登梯前に他の団員がはしごを確保し、「ヨシ！」の合図で登梯する。

登梯後は、はしご先端をロープ等で結着する。

建物火災 事例 18

2階建ての建物火災に出動し、2階部分の消火作業をするため、折りたたみはしごを2階のベランダに架けて進入しようとした際、はしごを確保する人員を配置しておらず、ベランダとはしごを固定していなかったため、はしごが倒れそうになり転落しそうになった。

結果 負傷なし

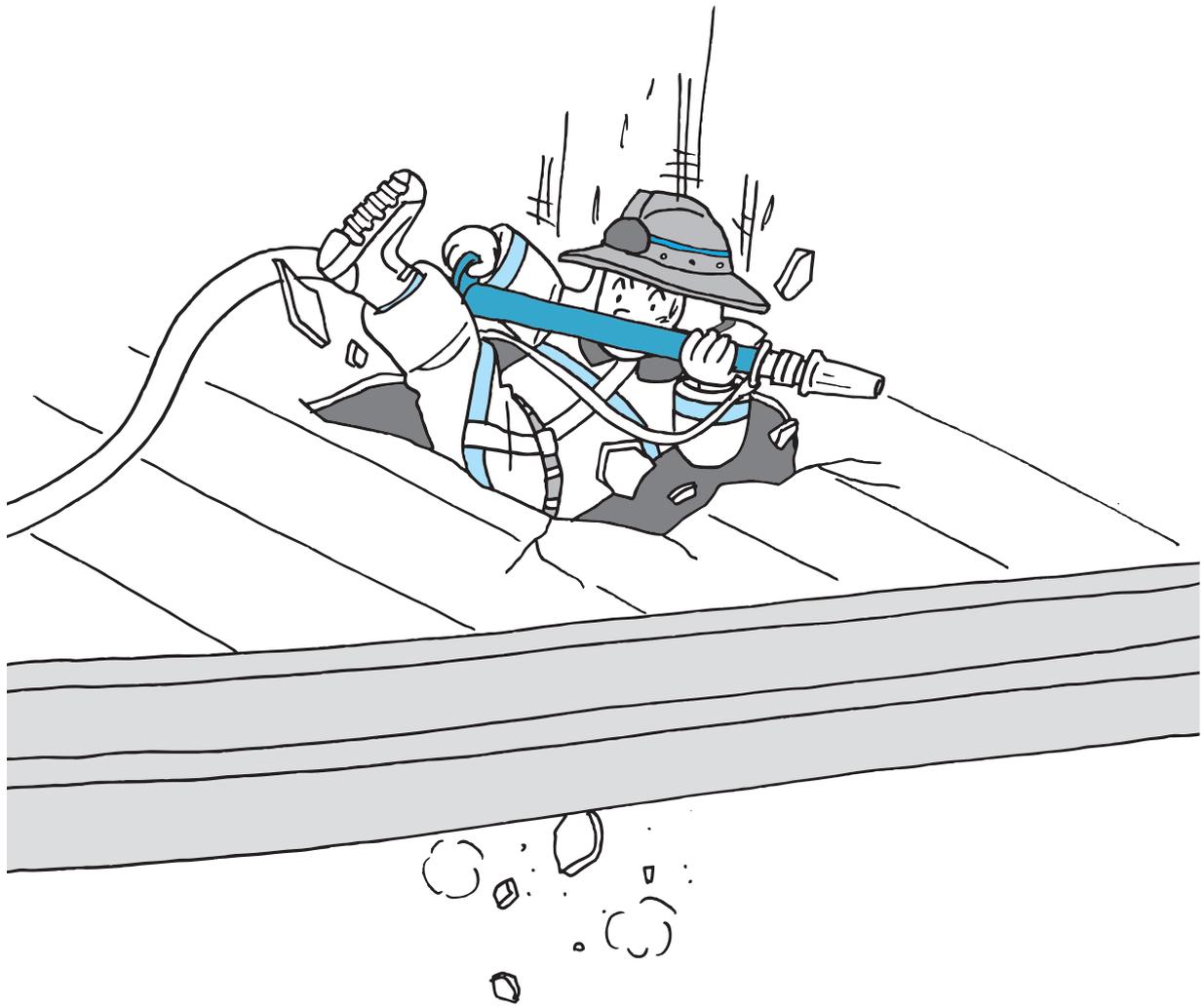
対策

はしごを2階にかける場合、ロープ等により固定する。

はしごを確保する人員を配置する。

建物
火災
事例
19

深夜の建物火災に出動し、筒先担当員として効果的な放水場所を確保するため、隣接する車庫の屋根に上がり移動していた際、照明器具を活用していなかったため周囲が暗く車庫の屋根のスレートが劣化している部分に気がつかずスレートを破損し地面に転落した。



結果 足首骨折

▶▶▶ 対策

夜間の高所作業をするときは照明を徹底し、安全確認の上で活動する。瓦、スレートなどは放水により滑りやすくなっているため部分破壊して足場を確保する。

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

ポンプ操作

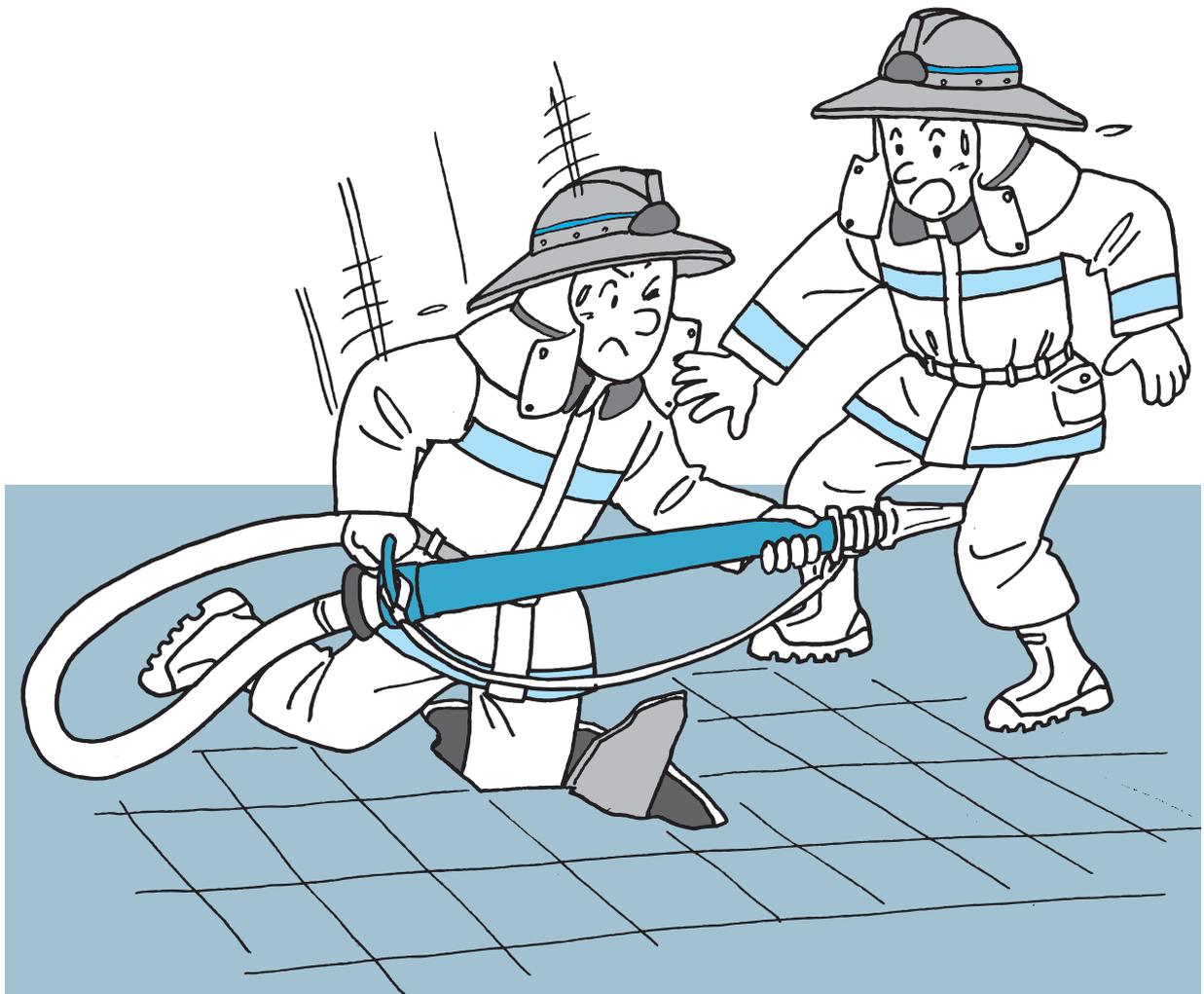
警戒・広報

往復経路

点検整備
その他

**建物
火災
事例
20**

工場の火災に出動し、筒先担当員として軽量鉄骨平屋建てスレートぶき工場の屋根に上り、工場内に放水していた際、筒先要員交代のため1mほど移動したとき、屋根板が焼けてスレートのみ残存している箇所があり、スレートも熱でもろくなっていたため、スレートが破れ片足が落下した。


結果
下腿部挫創
対策

スレート屋根、トタン・ビニール屋根等は踏み抜きによる転落の危険性が高いので原則として登らない。やむを得ず活動する場合には、積載はしご等で足場を確保する。

建物
火災
事例
21

RC造2階建てテナントビルの火災に出動し、筒先担当員として隣接する建物の2階の瓦屋根の上から放水をしていた際、夜間で周囲が薄暗く、屋根瓦が放水で濡れていたため、足を滑らせ火の中へ転落しそうになった。



結果 負傷なし

対策

滑りやすい状態の瓦屋根に登っての作業は、転落を防止するため、滑り止め用長靴や命綱を着用し、1人で行動せず筒先補助員を配置し安全管理に十分注意する。

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

ポンプ操作

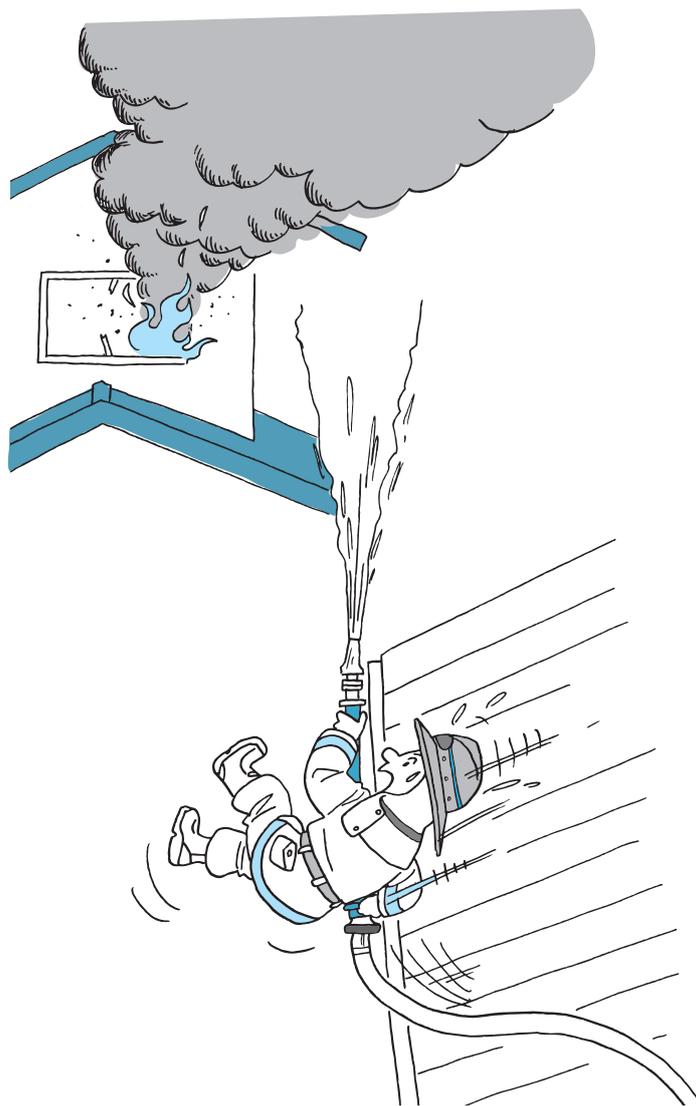
警戒・広報

往復経路

その他
点検整備

**建物
火災
事例
22**

工場火災に出動し、出火建物の隣の建物の屋根の上から筒先担当員として放水作業に従事した。いったん火炎が下火になったので一時放水を止めたが、まだ火が出ていたため再び放水を指示した際、急激に高い圧力で送水されこと及び屋根の上で足場が悪かったことから筒先をささえきれず、屋根から転落した。


結果
両上肢、両下肢負傷
対策

一時停水後の再送水時は筒先担当員と機関員との連携を密にし、適正な送水圧力を維持する。

屋根の上など足場が不安定な場所で放水する際には、数人でホースを保持し、必要に応じて監視員を配置する。

建物
火災
事例
23

建物火災に出動し、2階建て住宅の1階東側から放水をしていた際、他隊との意思の疎通が上手くとれず、反対側に部署していた隊の放水を直に受け転倒した。



結果

負傷者なし

▶▶▶ 対策

指揮者は災害現場全体の状況を確認して的確な指揮を執る。

全体の状況を見ながら部署位置を決める。

火災や周囲の状況変化を注視し、危険の兆候を先取りして部署位置を移動する。

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

ポンプ操作

警戒・広報

往復経路

その他
点検整備

建物火災
事例
24

早朝の住宅火災に出動し、筒先担当員として放水作業中、2階部分に回った火を消そうと放水した際、出火建物の反対側からも放水がされていたため、屋根瓦が飛来し、頭部をかすめた。



結果

負傷なし（ヘルメット
装着のため）

▶▶▶ 対策

反対側から放水が行われている場合は、他の方向へ移動してから放水する。

日頃から、装着訓練を徹底して行う。

建物
火災
事例
25

木造2階建て住宅の火災に出動し、筒先担当員として出火建物の玄関前から放水していた際、建物の反対側に部署していた他隊からの放水により屋根瓦が飛ばされ落下した。



結果 負傷なし

▶▶▶ 対策

現場指揮者は、活動隊の位置を把握し、反対側からの放水による事故が発生しないように部隊の活動指示を行う。

隊長は他隊の活動場所をできる限り把握し、隊員の安全確保に努める。

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

搜索救助

演習訓練

ポンプ操作

警戒・広報

往復経路

その他
点検整備

建物
火災
事例
26

木造平屋建物火災に出動し、筒先担当員として延焼建物に向かい最先端で放水作業中、突風により急激に炎が吹き返し、その火炎により負傷した。



結果

手及び顔面火傷

▶▶▶ 対策

木造建物火災は早期に建物全体に炎が伝わり、開口部から火炎が激しく噴出するので、突風の風下での火災防御は延焼建物の開口部を避け、壁面など遮へい物を活用した放水体勢を取る。

建物
火災
事例
27

2階建て住宅に出動し、火元建物の2階で消火活動中、物入れの戸を開けた瞬間、火が噴出した。



結果 負傷なし

▶▶▶ 対策

炎上建物の室内で戸を開ける場合は、戸に隠れて噴出する火炎から身を守る。

噴霧注水で戸の全面を覆って火炎の噴出を防止する。

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

ポンプ操作

警戒・広報

往復経路

点検整備
その他

建物火災 事例 28

耐火構造 5 階建ての工場火災に出動し、消防職員が呼吸保護具を装着して火点及び有毒ガスの有無を確認中の 1 階の火点室内に、待機指示を確認せず、火点を確認しようと呼吸保護具なしに室内に進入したところ室内に濃煙が充満していた。

結果 負傷なし

対策

呼吸器等、保護具の装着をしていない団員は炎上中の建物内への進入は絶対にさせない。

建物火災 事例 29

鉄骨造 2 階建て家具工場の火災に出動し、筒先担当員としてボイラー室内部での消火作業中、天井と壁はモルタル仕上げされていたが老朽化及び火災の熱によりモルタルがはく離し天井が落下した。

直前に「ミシッ」という音がしたので危険を感じ退去した直後に落下した。

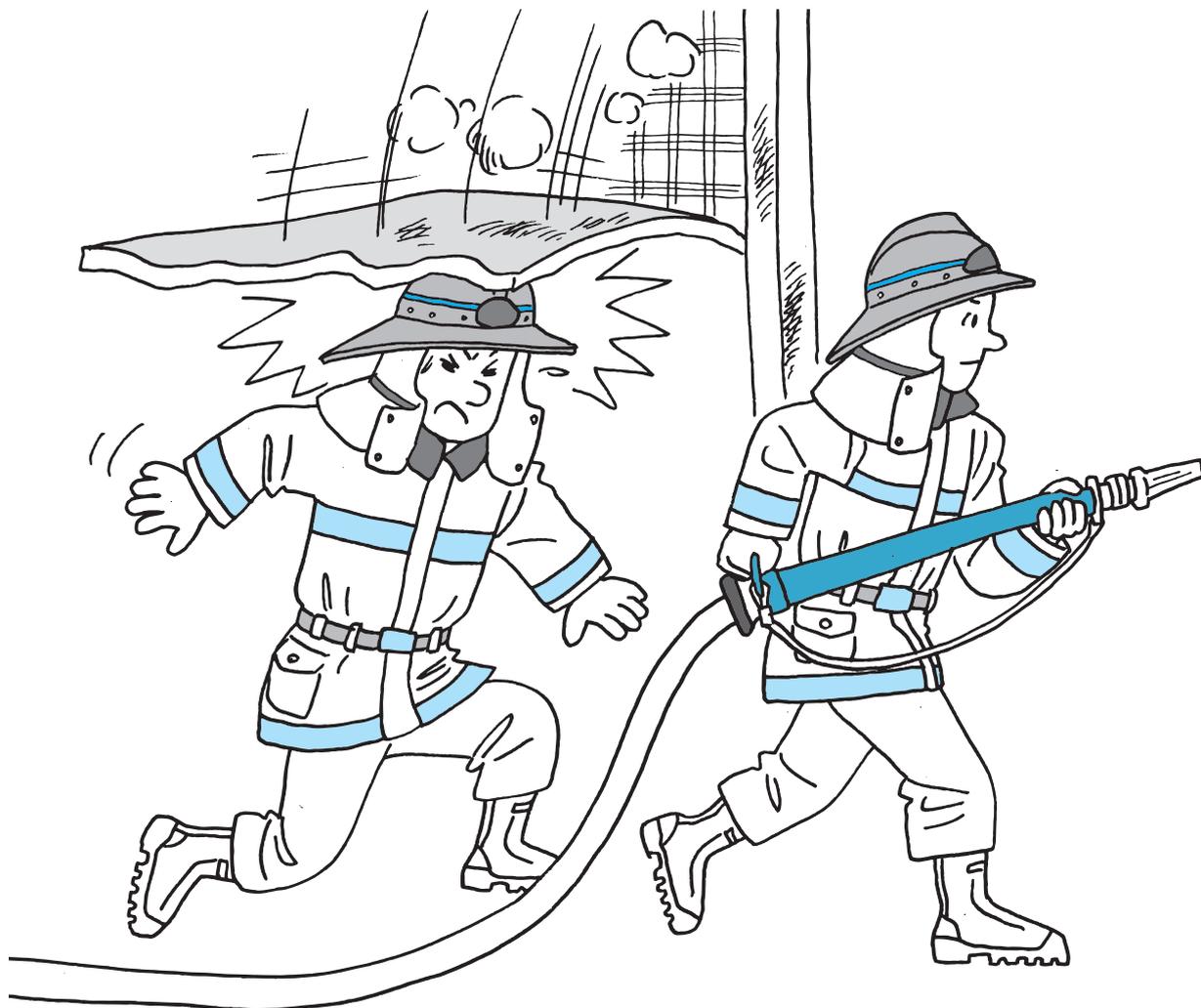
結果 負傷者なし

対策

室内進入に際しては、放水により落下の危険性がある物を払い落とす。天井や壁のたわみやゆがみに注意し、落下危険の兆候を察知する。

建物
火災
事例
30

木造2階建ての共同住宅の火災に出動し、消火作業中、消防職員が筒先を保持し屋内進入する際に、団員がホース延長の補助に付き、火災建物に近づいたところ、熱と水分で膨張したモルタルが剥離して落下し、保安帽を直撃した。



結果 負傷なし

▶▶▶ 対策

耐火性の化粧モルタルなどは剥離落下する危険性があるので、亀裂、膨らみ等が生じたら直ちに避難する。

建物火災には、常に倒壊の危険性があるので、監視員の配置、立入禁止区域の設定を行う。

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

ポンプ操作

警戒・広報

往復経路

点検整備
その他